

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3991000047		
法人名	有限会社 沙羅		
事業所名	グループホーム なのはな		
所在地	高知県四万十市山路308-1		
自己評価作成日	令和元年5月1日	評価結果 市町村受理日	令和元年7月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『尊厳ある笑顔の絶えない関係作りを地域とともに』という事業所理念を掲げ、利用者一人ひとりの尊厳と笑顔が自然に出てくる関係づくりと、これまでの生活の継続が出来るケアに努めている。

日々のレクリエーションや月に一度の行事は、職員がアイデアを出し合い、協力して行っている。また、職員は、利用者が気持ちよく生活できるよう、服装の色合いにも気を配り、挨拶は笑顔で出来るよう特に気をつけている。

地域住民や、家族にいつでも来てもらいやすい環境と、雰囲気づくりに努めている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JkyosyoCd=3991000047-00&amp;ServiceCd=320">http://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JkyosyoCd=3991000047-00&amp;ServiceCd=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会		
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ		
訪問調査日	令和元年6月12日		

事業所は、市街地から少し離れた国道沿いにある。「尊厳ある笑顔の絶えない関係づくりを地域と共に」を事業所理念とし、管理者は、職員に利用者に関わるときには「利用者を自分に置き換えて考えてみる」ことを徹底し、理念に沿って、職員と一丸となって、利用者一人ひとりの関わりを大切にするケアに取り組んでいる。

玄関や共用空間では、花や壁面いっぱい飾られた折り紙から季節を感じる事ができ、庭には畑が作られ、季節の野菜が育てられている。利用者は、明るく清潔に整えられたお気に入りの場所で、笑顔で過ごしている。

事業所は豪雨時の利用者避難の経験があり、年間計画を定め、地区住民の協力も得て、様々な想定による避難訓練を実施している。また、近隣住民とは、緊急時などにはすぐに駆け付けてもらえる協力関係ができています。

事業所の行事には多数の家族、地域住民の参加があり、事業所は、地域の一員として受け入れられている。

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名:つくし

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<b>○理念の共有と実践</b> 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者が、地域の中で地域との関わりを持ちながら生活が続けられるよう、理念を掘り下げ、職員全体でケアでの実践について話し合っている。	設立時に職員が話し合っ作り上げた理念が事務所に掲示され、職員に意識づけられている。職員は、特に言葉かけを大切にすることで笑顔と尊厳を守っている。また、地域との関わりも大切にしている。	
2	(2)	<b>○事業所と地域とのつきあい</b> 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事への参加が出来るよう、地区長や民生委員から情報を得ている。小、中学校の訪問や、近くのパン屋に配達をしてもらったり、利用者も日常的に散歩に出かけ近隣住民と会話を交わして、交流を深めている。	回覧板や地区長、民生委員から地域の情報を得て、地域の敬老会には職員、利用者が参加し、婦人部や、小中学生の定期的な訪問がある。大雨の際には近隣住民が気遣って訪れてくれ、避難時にはおにぎりの差し入れもあった。	
3		<b>○事業所の力を活かした地域貢献</b> 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所に行事等で地域住民の訪問があるときは、利用者の日々の活動や取り組みを写真の展示や、職員の話しなどで理解してもらっている。	/	/
4	(3)	<b>○運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ヒヤリハットや利用者の入所状況、日々の事業所活動の報告をしている。質疑応答の時間を多くとり、活発な意見交換が行われている。	家族、地域住民の代表、民生委員、市担当職員の参加があり、様々な協議が行われている。地域住民から避難場所についての提案があり、運営推進会議で検討して、避難場所を1ヶ所増やすことにつながった。議事録は全家族に郵送されている。	運営推進会議で取り上げられた提案や、意見を受けての取り組み経過、その結果を報告し、更に協議することで会議がより充実することを期待したい。
5	(4)	<b>○市町村との連携</b> 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市職員とは、日頃から分からないことがあればすぐに相談できる関係づくりに努めている。	事業所の避難訓練では、市防災課職員が参加して助言を得た。介護保険課、地域包括支援センター職員は運営推進会議に毎回出席し、いつでも気軽に相談できる関係にある。	
6	(5)	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者は身体拘束の研修には常に参加し、学んできた知識は伝達講習で職員全員に伝えて、ユニット内や事業所全体での理解を深めている。スピーチロック等の行動抑制についても、職員同注意し合えるよう常に話し合い、理解を深めている。	研修は主に管理者が参加し、伝達講習をしている。利用者への声掛けが命令口調であることに気が付いたときは、管理者はその都度注意を徹底して、身体拘束をしないケアに努めている。日中は玄関の施錠はせず、外出傾向のある利用者には見守り対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者が研修に参加し、学んできた内容を全職員に内部研修の形で伝達し、身近にある不適切なケアについての理解や、知識を深めるよう話し合いを行っている。虐待が見過ごされることがないように、相談と報告を徹底し、利用者の様子を観察している。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は権利擁護関係の制度について常に学び、個々の必要性について職員の理解が深まるよう、伝達研修を行っている。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時にはゆっくりと時間をとって家族に説明し、納得を得たうえで契約をしてもらっている。不明な点はその都度聞いてもらえるように説明し、改定時には、改定部分が理解しやすいよう説明を重ねて、納得してもらっている。		
10	(6)	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、家族の面会時には管理者、職員から利用者の状況報告をした後、意見や要望を気軽に言ってもらえるようにしている。出された意見、要望は、運営に反映できるよう職員同士話し合いを重ねている。家族との会話の内容も、情報共有できるよう送り表に記入している。	利用者の身近の細かい要望などは職員に直接伝えにくい家族の気持ちを汲み取り、きめ細かく本人本位のケアに徹することを心掛けているほか、家族の要望で毎月の利用料の振込先金融機関を増やしたり、雨の日に濡れないよう玄関の軒先の屋根を整備したりして、対応している。	
11	(7)	<b>○運営に関する職員意見の反映</b> 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2ヶ月毎の管理者会の内容を職員全員が共有するとともに、日々の申し送りやスタッフ会の際には意見や提案を汲み上げ、代表者に報告して、運営に反映させている。	調理担当職員の雇用、資格取得の支援、ホームページの立ち上げ等に職員からの提案が取り入れられている。また、夜間の避難訓練の体験から、街灯設置につながっている。要望はスタッフ会で話し合われ、予算が伴う場合は管理者が代表者に伝えている。	
12		<b>○就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見や要望は真剣に取り上げ、改善点等があればその都度話し合っており、やりがいのある職場環境になるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<b>○職員を育てる取り組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を立て、外部研修にはできるだけ多くの職員が参加できるよう配慮している。また、スタッフ会等での伝達講習を行い、職員全員が実践力を向上させられるように取り組んでいる。		
14		<b>○同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	母体法人系列の事業所との交流会や、市内のグループホーム連絡会等に参加し、意見交換や見学などを定期的に行って意見を聞き、サービス向上の参考にしている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<b>○初期に築く本人との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の面談や事業所への見学等の際に、本人のこれまでの生活状況や楽しみ、生きがいなどを傾聴し、担当職員を決めて、常に身近にいて安心感を持ち、事業所生活を送ってもらえる関係を築くことに努めている。		
16		<b>○初期に築く家族等との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの本人と家族の関わりや要望などに応えられるようゆっくりと話し合い、意向を聞き出して、実践できるよう努めている。		
17		<b>○初期対応の見極めと支援</b> サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の意向を十分に把握し、入所できるまで様々なサービスを勧めたり、他の事業所の空き情報も調べて紹介している。		
18		<b>○本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の出来る能力を活用し、家事や趣味を楽しみ、職員とともに生活を送っている。特に行事の際は、利用者に料理を教えてもらって調理し、劇などにも参加してもらって楽しんでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には毎月事業所便りを送り、利用者の生活状況や行事内容を伝えるとともに、本人の意向、気になることを電話連絡して、確認している。家族面談の際には会話から利用者の要望等が聞けることがあり、支援に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の友人、知人の訪問があって交流が続いており、ゆっくりと過ごしてもらえるよう配慮している。家族の協力を得て思い出の場所や、馴染みの場所へ行ったり、好きなこと、本人の楽しいと思うことを一緒にして、家族との関係を継続するなどの支援をしている。	利用者の知り合いの来訪が多く、関係が続くよう歓待している。家族の協力で行きつけの理髪店に行き交流したり、本人の希望する喫茶店に出掛けているほか、事業所でもドライブの際に利用者の馴染みの場所に立ち寄りしたりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、職員が間に入って仲立ちしたり、気の合う利用者同士が過ごしやすいよう、テーブルやソファ配置を工夫したりして、利用者間の良好な関係が築けるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族には、契約終了後も気軽に相談してもらえるよう伝えている。気軽に事業所に立ち寄ってもらえるよう本人に声掛けし、家族と一緒に遊びに来られる利用者もいる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	散歩やおやつ等、利用者のくつろぎの時間を大切にし、利用者の声を傾聴することを心掛けるとともに、日々の関わりの中での表情や、仕草などを見逃さないよう職員間で情報共有をしつつ、一人ひとりの立場に立って、利用者の思いや要望を把握している。	七夕の短冊の願い事や、散歩中の会話などから利用者個々の趣味などを知り、情報共有して、統一したケアにつなげている。センター方式を活用し、より細かな記録で利用者の思いや意向の情報共有に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、入所前の担当ケアマネージャー等から、これまでの本人の生活歴や、サービスの利用状況などの詳細を確認している。来方する友人、知人にも話を聞くなどして把握し、支援に活かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		<b>○暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケアや利用者との会話の中で一人ひとりが有する力、心身状態等の気づいたことは送り表に記入し、職員全員が情報共有できるよう努めている。		
26	(10)	<b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族に介護計画の意味と重要性を説明し、要望を聞くとともに、チームケアとして職員の意見や気づきを確認しながら、今本人に何が必要かを反映した介護計画を作成している。	介護計画の見直しは、3ヶ月に一度、あるいは本人の状態が変化した場合に随時に行っている。家族の意向は面会時に聞き取り、担当職員、管理者、職員で意見交換して、介護計画を作成している。	
27		<b>○個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者一人ひとりのケアの実践状況や日々の様子、気づきなどをケア記録等に詳細に記録し、情報共有するとともに、介護計画の見直しに活かしている。また、日々の身体状況なども生活チェック表にまとめ、主治医が一目でわかるよう詳細に記録している。		
28		<b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b> 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じた通院支援や、本人の必要なものの買い出しなどの支援をしている。本人の希望に応じられるよう、取り組んでいる。		
29		<b>○地域資源との協働</b> 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	良心市へ出品されている近所の農家に会うので、散歩時などには挨拶を心掛け、つながりが持てるよう支援している。		
30	(11)	<b>○かかりつけ医の受診支援</b> 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医を受診してもらっている。受診は家族の同行となっているが、職員も同行して詳しい状況を説明することもある。	利用者、家族の希望でかかりつけ医を決めているが、7人の利用者が協力医をかかりつけ医として、2週間に一度の往診を受けている。受診は家族が対応することが多いが、職員も同行することがある。家族が対応できないときは職員が同行して、家族には電話連絡で受診結果を報告している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職との協働</b> 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	一週間に一度看護師の訪問を受け、健康管理のアドバイスをしてもらったり、利用者の日々の体調を報告し、急変時の迅速な対応につなげている。注意事項や、相談事は個々の受診ノートにまとめ、職員全員が共有できている。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院したときは定期的に病院に行き、本人と面会して、安心して入院治療を受けられるよう支援している。また、家族や病院相談員と密に連絡を取り合い、早期退院できるように話し合っている。		
33	(12)	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に看取り指針に沿って利用者、家族に説明し、意向を確認している。当初は入院を希望していても、入所後はできるだけ事業所で過ごすことを希望する利用者、家族もあり、医療とも連携して、チームでケアをしている。	家族の気持ちの変化や、医師の協力が得にくいなどの事情で、看取り実績はない。看取り介護に向けての取り組みは、職員の研修はされているが、医療、家族、事業所の連携体制構築には至っていない。	看取り介護について全職員が研修を積み、事業所でできることを話し合っで見極め、医療、看護とのチームで重度化時の支援をする体制整備を期待する。
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフ会や申し送り時に、事故発生時対応の勉強会をしている。職員は、慌てずに連絡を取り合い、対応できるよう実践力を身につけている。		
35	(13)	<b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に迅速な対応が出来るよう、定期的な訓練を実施している。特に、地震対策として津波に備え、近くにある避難タワーまでの避難訓練を地域住民と一緒に重ねている。	事業所は洪水時の避難経験が数回あり、運営推進会議メンバーや民生委員も参加しての避難訓練を行なっている。非常用食糧、飲料水等は3日分備蓄し、災害に備えている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	<b>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</b> 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの人格、誇りを大切にしたケアについてスタッフ会や申し送り時に繰り返し勉強会を行い、職員にその人の尊厳を大切にすることを徹底している。	利用者の人格を尊重した対応をするために、スタッフ会では利用者の立場を自分に置き換えて考え、職員自身も安定した気持ちで接することが大切であることを話し合い、ケアで実践している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		<b>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</b> 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケアの実践において、何事も始める前にまず利用者に確認し、言葉や表情などから思いや希望を多く聞くことのできる環境と雰囲気づくりに努めている。		
38		<b>○日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな時間の区切りはあるが、本人の生活リズムを崩さないように心掛けている。その日の過ごし方などは、個々の希望を聞いている。		
39		<b>○身だしなみやおしゃれの支援</b> その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の着衣は本人の意向を大切に、職員は見守り、声掛けや相談に応じる支援をしている。外出時には、化粧をしたり洋服と一緒に選んで、おしゃれを楽しむことができるよう支援している。		
40	(15)	<b>○食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを聞きながら献立を考えたり、誕生日の昼食では、事前に本人の食べたいものを聞いて、それを出すようにしている。利用者には、テーブル拭き、片づけ等で個々の役割を持ってもらうよう支援している。	音楽を流したり、戸外で食べるなど、気分転換できるよう配慮をしている。誕生日には、利用者の希望のメニューにし、アレルギーのある利用者には、代替品で対応するなどの工夫もしている。	
41		<b>○栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に食事、水分の摂取量を記録し、食事量が少ない場合は、形態を工夫したり、好みの味付けや献立にして対応している。体重測定も月に一度行っている。水分摂取量が少ない場合には、飲み物をゼリー状にしている。		
42		<b>○口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の状態に合わせて、毎食後の口腔ケアを徹底している。本人のできることはしてもらい、できない部分は介助しながら、口腔内のチェックは職員が行っている。		
43	(16)	<b>○排泄の自立支援</b> 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンや尿意の表情や動作を見逃さず、出来るだけトイレで排泄できるように支援している。また、食後には排泄の声掛けをして、促している。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、声掛けでトイレでの排泄支援をしている。病院からの入所で、退院時には紙パンツを使用していた利用者が、トイレ誘導等の促進によりパット使用に改善された事例がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		<b>○便秘の予防と対応</b> 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	多くの水分摂取が得られるよう、味の違う飲み物を作ったり、起床時に白湯、朝食時にはバナナ、夕食時にはヨーグルトを必ず出している。入浴時にも腹部マッサージをしたり、散歩や体操を積極的に取り入れて、自然排便が出来るよう支援している。		
45	(17)	<b>○入浴を楽しむことができる支援</b> 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望を聞きながら、入浴支援をしている。入浴を嫌がる利用者には、希望する日時にはいつでも入浴できるよう調整して、支援している。	毎日入浴したい利用者にも対応し、入浴を嫌がる利用者には、強制することなく、毎日声掛けすることで入浴につなげている。シャンプー、石けんの好みや湯加減などを一人ひとりに合わせて、気持ち良く入浴できるよう支援している。	
46		<b>○安眠や休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入所前の生活習慣を大切に、ホールの畳コーナーでいつでも臥床できるよう、毛布などを置いている。また、昼夜逆転しないように日中の活動を増やし、活動的に楽しく過ごせるよう支援している。		
47		<b>○服薬支援</b> 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の用法、用量を間違わないよう職員全員が共有し、服薬時には利用者の顔を見て、名前を言って、誤薬のないよう声掛けをし合っている。職員は、薬の副作用、薬剤情報についての研修に参加し、スタッフ会等での伝達研修を行って、個々の認識を深めている。		
48		<b>○役割、楽しみごとの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員は利用者一人ひとりの生活歴や楽しみを把握し、会話を通してその日の過ごし方を聞き、生活に張りが持てるよう支援している。		
49	(18)	<b>○日常的な外出支援</b> 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の体調や天候を見ながら、利用者は散歩やドライブに出かけている。その日の希望に沿えない場合には、別の日に声掛けするなどして対応している。馴染みの喫茶店へも時折立ち寄り、気分転換を図っている。	利用者はほぼ毎日事業所周辺を散歩し、歩行が困難な利用者は、玄関前に設置したベンチで外気浴をしている。本人の希望を聞いて、買い物、ドライブに出掛け、希望が出ない利用者には、行きたい場所を見出すことから支援している。年2回の外出には、全員が参加できるよう配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<b>○お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、家族の希望に応じて事業所が預かったり、本人が所持したりしている。移動販売が来たときなどは、本人が支払いできるように支援したり、お金がないと不安になる利用者には、預り金の中から少額を本人に手渡している。		
51		<b>○電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者から希望があれば、いつでも電話をかけることができるよう支援している。手紙を出す利用者はいないが、年賀状は家族に出すよう支援している。		
52	(19)	<b>○居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの壁の紙飾りで季節感が出せるようにし、ベランダには季節の花を植えている。室温には配慮し、足音や物音で不快感を与えないよう、居心地良く過ごせる工夫をしている。また、食事の際は音楽を流し、ゆっくりと食事を楽しんでもらえるよう努めている。	玄関の花や壁面いっぱい飾られた折り紙の作品からは、季節が感じられる。テーブル配置やソファの色で、明るい空間づくりを工夫している。利用者一人ひとりが、お気に入りの場所でくつろぐ様子が見られた。	
53		<b>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士で過ごせるよう、ソファでくつろげる空間がある。テレビを見たくない利用者は雑誌、新聞を読んだり、一人になりたいときは自室に戻ったりして、思い思いに過ごしている。職員は、利用者の表情を組み取り、声掛けをしている。		
54	(20)	<b>○居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には、本人が入所前に使っていた馴染みの物や、好みの物を持って来てもらうようお願いしている。花、植物、写真を入所者の好みに合わせ飾っている。また、居室に本なども置くようにしている。	家族の協力を得て、家具、花、写真、テレビなどを置き、その人らしい部屋になるよう工夫している。布団を干す習慣のある利用者への支援として、手摺を付けて安全確保をしている。	
55		<b>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりに要望を聞き、各々に合った生活ができるよう工夫している。トイレの目印の張り紙や、照明などにも配慮している。各利用者の居室入口には名前を書き、安心してもらっている。		

ユニット名:

つくし

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名:れんげ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<b>○理念の共有と実践</b> 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者が、地域の中で地域との関わりを持ちながら生活が続けられるよう、理念を掘り下げ、職員全体でケアでの実践について話し合っている。		
2	(2)	<b>○事業所と地域とのつきあい</b> 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事への参加が出来るよう、地区長や民生委員から情報を得ている。小、中学校の訪問や、近くのパン屋に配達をしてもらったり、利用者も日常的に散歩に出かけ近隣住民と会話を交わして、交流を深めている。		
3		<b>○事業所の力を活かした地域貢献</b> 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所に行事等で地域住民の訪問があるときは、利用者の日々の活動や取り組みを写真の展示や、職員の話しなどで理解してもらっている。		
4	(3)	<b>○運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ヒヤリハットや利用者の入所状況、日々の事業所活動の報告をしている。質疑応答の時間を多くとり、活発な意見交換が行われている。		
5	(4)	<b>○市町村との連携</b> 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市職員とは、日頃から分からないことがあればすぐに相談できる関係づくりに努めている。		
6	(5)	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者は身体拘束の研修には常に参加し、学んできた知識は伝達講習で職員全員に伝えて、ユニット内や事業所全体での理解を深めている。スピーチロック等の行動抑制についても、職員同注意し合えるよう常に話し合い、理解を深めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者が研修に参加し、学んできた内容を全職員に内部研修の形で伝達し、身近にある不適切なケアについての理解や、知識を深めるよう話し合いを行っている。虐待が見過ごされることがないように、相談と報告を徹底し、利用者の様子を観察している。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は権利擁護関係の制度について常に学び、個々の必要性について職員の理解が深まるよう、伝達研修を行っている。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時にはゆっくりと時間をとって家族に説明し、納得を得たうえで契約をしてもらっている。不明な点はその都度聞いてもらえるように説明し、改定時には、改定部分が理解しやすいよう説明を重ねて、納得してもらっている。		
10	(6)	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、家族の面会時には管理者、職員から利用者の状況報告をした後、意見や要望を気軽に言ってもらえるようにしている。出された意見、要望は、運営に反映できるよう職員同士話し合いを重ねている。家族との会話の内容も、情報共有できるよう送り表に記入している。		
11	(7)	<b>○運営に関する職員意見の反映</b> 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2ヶ月毎の管理者会の内容を職員全員が共有するとともに、日々の申し送りやスタッフ会の際には意見や提案を汲み上げ、代表者に報告して、運営に反映させている。		
12		<b>○就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見や要望は真剣に取り上げ、改善点等があればその都度話し合っ、やりがいのある職場環境になるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<b>○職員を育てる取り組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を立て、外部研修にはできるだけ多くの職員が参加できるよう配慮している。また、スタッフ会等での伝達講習を行い、職員全員が実践力を向上させられるように取り組んでいる。		
14		<b>○同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	母体法人系列の事業所との交流会や、市内のグループホーム連絡会等に参加し、意見交換や見学などを定期的に行って意見を聞き、サービス向上の参考にしている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<b>○初期に築く本人との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の面談や事業所への見学等の際に、本人のこれまでの生活状況や楽しみ、生きがいなどを傾聴し、担当職員を決めて、常に身近にいて安心感を持ち、事業所生活を送ってもらえる関係を築くことに努めている。		
16		<b>○初期に築く家族等との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの本人と家族の関わりや要望などに応えられるようゆっくりと話し合い、意向を聞き出して、実践できるよう努めている。		
17		<b>○初期対応の見極めと支援</b> サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の意向を十分に把握し、入所できるまで様々なサービスを勧めたり、他の事業所の空き情報も調べて紹介している。		
18		<b>○本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の出来る能力を活用し、家事や趣味を楽しみ、職員とともに生活を送っている。特に行事の際は、利用者に料理を教えてもらって調理し、劇などにも参加してもらって楽しんでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p><b>○本人を共に支えあう家族との関係</b></p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族には毎月事業所便りを送り、利用者の生活状況や行事内容を伝えるとともに、本人の意向、気になることを電話連絡して、確認している。家族面談の際には会話から利用者の要望等が聞けることがあり、支援に努めている。</p>		
20	(8)	<p><b>○馴染みの人や場との関係継続の支援</b></p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>利用者の友人、知人の訪問があつて交流が続いており、ゆっくりと過ごしてもらえるよう配慮している。家族の協力を得て思い出の場所や、馴染みの場所へ行ったり、好きなこと、本人の楽しいと思うことを一緒にして、家族との関係を継続するなどの支援をしている。</p>		
21		<p><b>○利用者同士の関係の支援</b></p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者同士の関係を把握し、職員が間に入って仲立ちしたり、気の合う利用者同士が過ごしやすいう、テーブルやソファ配置を工夫したりして、利用者間の良好な関係が築けるよう支援している。</p>		
22		<p><b>○関係を断ち切らない取組み</b></p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>家族には、契約終了後も気軽に相談してもらえるよう伝えている。気軽に事業所に立ち寄ってもらえるよう本人に声掛けし、家族と一緒に遊びに来られる利用者もいる。</p>		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	<p><b>○思いや意向の把握</b></p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>散歩やおやつ等、利用者のくつろぎの時間を大切に、利用者の声を傾聴することを心掛けるとともに、日々の関わりの中での表情や、仕草などを見逃さないよう職員間で情報共有をしつつ、一人ひとりの立場に立って、利用者の思いや要望を把握している。</p>		
24		<p><b>○これまでの暮らしの把握</b></p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>本人、家族、入所前の担当ケアマネージャー等から、これまでの本人の生活歴や、サービスの利用状況などの詳細を確認している。来方する友人、知人にも話を聞くなどして把握し、支援に活かしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		<b>○暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケアや利用者との会話の中で一人ひとりが有する力、心身状態等の気づいたことは送り表に記入し、職員全員が情報共有できるよう努めている。		
26	(10)	<b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族に介護計画の意味と重要性を説明し、要望を聞くとともに、チームケアとして職員の意見や気づきを確認しながら、今本人に何が必要かを反映した介護計画を作成している。		
27		<b>○個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者一人ひとりのケアの実践状況や日々の様子、気づきなどをケア記録等に詳細に記録し、情報共有するとともに、介護計画の見直しに活かしている。また、日々の身体状況なども生活チェック表にまとめ、主治医が一目でわかるよう詳細に記録している。		
28		<b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b> 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じた通院支援や、本人の必要なものの買い足しなどの支援をしている。本人の希望に応じられるよう、取り組んでいる。		
29		<b>○地域資源との協働</b> 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	良心市へ出品されている近所の農家に会うので、散歩時などには挨拶を心掛け、つながりが持てるよう支援している。		
30	(11)	<b>○かかりつけ医の受診支援</b> 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医を受診してもらっている。受診は家族の同行となっているが、職員も同行して詳しい状況を説明することもある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職との協働</b> 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	一週間に一度看護師の訪問を受け、健康管理のアドバイスをしてもらったり、利用者の日々の体調を報告し、急変時の迅速な対応につなげている。注意事項や、相談事は個々の受診ノートにまとめ、職員全員が共有できている。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院したときは定期的に病院に行き、本人と面会して、安心して入院治療を受けられるよう支援している。また、家族や病院相談員と密に連絡を取り合い、早期退院できるように話し合っている。		
33	(12)	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に看取り指針に沿って利用者、家族に説明し、意向を確認している。当初は入院を希望していても、入所後はできるだけ事業所で過ごすことを希望する利用者、家族もあり、医療とも連携して、チームでケアをしている。		
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフ会や申し送り時に、事故発生時対応の勉強会をしている。職員は、慌てずに連絡を取り合い、対応できるよう実践力を身につけている。		
35	(13)	<b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に迅速な対応が出来るよう、定期的な訓練を実施している。特に、地震対策として津波に備え、近くにある避難タワーまでの避難訓練を地域住民と一緒に重ねている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	<b>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</b> 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの人格、誇りを大切にしたケアについてスタッフ会や申し送り時に繰り返し勉強会を行い、職員にその人の尊厳を大切にすることを徹底している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		<b>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</b> 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケアの実践において、何事も始める前にまず利用者に確認し、言葉や表情などから思いや希望を多く聞くことのできる環境と雰囲気づくりに努めている。		
38		<b>○日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな時間の区切りはあるが、本人の生活リズムを崩さないように心掛けている。その日の過ごし方などは、個々の希望を聞いている。		
39		<b>○身だしなみやおしゃれの支援</b> その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の着衣は本人の意向を大切に、職員は見守り、声掛けや相談に応じる支援をしている。外出時には、化粧をしたり洋服と一緒に選んで、おしゃれを楽しむことができるよう支援している。		
40	(15)	<b>○食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを聞きながら献立を考えたり、誕生日の昼食では、事前に本人の食べたいものを聞いて、それを出すようにしている。利用者には、テーブル拭き、片づけ等で個々の役割を持ってもらうよう支援している。		
41		<b>○栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に食事、水分の摂取量を記録し、食事量が少ない場合は、形態を工夫したり、好みの味付けや献立にして対応している。体重測定も月に一度行っている。水分摂取量が少ない場合には、飲み物をゼリー状にしている。		
42		<b>○口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の状態に合わせて、毎食後の口腔ケアを徹底している。本人のできることはしてもらい、できない部分は介助しながら、口腔内のチェックは職員が行っている。		
43	(16)	<b>○排泄の自立支援</b> 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンや尿意の表情や動作を見逃さず、出来るだけトイレで排泄できるように支援している。また、食後には排泄の声掛けをして、促している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		<b>○便秘の予防と対応</b> 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	多くの水分摂取が得られるよう、味の違う飲み物を作ったり、起床時に白湯、朝食時にはバナナ、夕食時にはヨーグルトを必ず出している。入浴時にも腹部マッサージをしたり、散歩や体操を積極的に取り入れて、自然排便が出来るよう支援している。		
45	(17)	<b>○入浴を楽しむことができる支援</b> 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望を聞きながら、入浴支援をしている。入浴を嫌がる利用者には、希望する日時にはいつでも入浴できるよう調整して、支援している。		
46		<b>○安眠や休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入所前の生活習慣を大切に、ホールの畳コーナーでいつでも臥床できるよう、毛布などを置いている。また、昼夜逆転しないように日中の活動を増やし、活動的に楽しく過ごせるよう支援している。		
47		<b>○服薬支援</b> 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の用法、用量を間違わないよう職員全員が共有し、服薬時には利用者の顔を見て、名前を言って、誤薬のないよう声掛けをし合っている。職員は、薬の副作用、薬剤情報についての研修に参加し、スタッフ会等での伝達研修を行って、個々の認識を深めている。		
48		<b>○役割、楽しみごとの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員は利用者一人ひとりの生活歴や楽しみを把握し、会話を通してその日の過ごし方を聞き、生活に張りりが持てるよう支援している。		
49	(18)	<b>○日常的な外出支援</b> 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	個々の体調や天候を見ながら、利用者は散歩やドライブに出かけている。その日の希望に沿えない場合には、別の日に声掛けするなどして対応している。馴染みの喫茶店へも時折立ち寄り、気分転換を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<b>○お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、家族の希望に応じて事業所が預かったり、本人が所持したりしている。移動販売が来たときなどは、本人が支払いできるように支援したり、お金がないと不安になる利用者には、預り金の中から少額を本人に手渡している。		
51		<b>○電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者から希望があれば、いつでも電話をかけることが出来るよう支援している。手紙を出す利用者はいないが、年賀状は家族に出すよう支援している。		
52	(19)	<b>○居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの壁の紙飾りで季節感が出せるようにし、ベランダには季節の花を植えている。室温には配慮し、足音や物音で不快感を与えないよう、居心地良く過ごせる工夫をしている。また、食事の際は音楽を流し、ゆっくりと食事を楽しんでもらえるよう努めている。		
53		<b>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士で過ごせるよう、ソファーでくつろげる空間がある。テレビを見たくない利用者は雑誌、新聞を読んだり、一人になりたいときは自室に戻ったりして、思い思いに過ごしている。職員は、利用者の表情を組み取り、声掛けをしている。		
54	(20)	<b>○居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には、本人が入所前に使っていた馴染みの物や、好みの物を持って来てもらうようお願いしている。花、植物、写真を入所者の好みに合わせ飾っている。また、居室に本なども置くようにしている。		
55		<b>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりに要望を聞き、各々に合った生活ができるよう工夫している。トイレの目印の張り紙や、照明などにも配慮している。各利用者の居室入口には名前を書き、安心してもらっている。		

ユニット名:

れんげ

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
		○	3. 利用者の1/3くらいの			○	3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)		1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
		○	2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)		1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		1. ほぼ全ての利用者が				
		○	2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				